

# FLTAX

(フルオロウラシル+パクリタキセル+レボホリナート)

## ◆ 点滴に使用する薬と点滴時間

- 1、8、15日目：2時間20分

| 使用する薬                            | 外観  | 点滴時間                         | 1日目 | 8日目 | 15日目 |
|----------------------------------|---|------------------------------|-----|-----|------|
| 吐き気止め<br>デカドロン®                  |    | 15分                          | ●   | ●   | ●    |
| 過敏症予防<br>ポラミン®<br>ファモチジン         |   |                              |     |     |      |
| レボホリナート<br>250mg/m <sup>2</sup>  |    | レボホリナート<br>2時間               | ●   | ●   | ●    |
| パクリタキセル<br>60mg/m <sup>2</sup>   |   | パクリタキセル<br>1時間<br>(同時に開始します) |     |     |      |
| フルオロウラシル<br>500mg/m <sup>2</sup> |  | 5分                           | ●   | ●   | ●    |

- パクリタキセルにはアルコールが含まれています。アルコールに弱い方は医療スタッフにお声かけください。
- アルコールや過敏症予防のポラミン®の影響により眠気が出ることもあるため、ふらつき、転倒に注意し、投与当日の車の運転は行わないでください。
- 薬の量は、副作用の程度などにより変更されることがあります。
- 点滴時間はあくまで目安であり、時間が前後することがあります。

## ◆ スケジュール

28日間を1サイクルとして治療を繰り返します。

## ◆ 飲み合わせについて

- フルオロウラシルは、下記の薬を投与中および中止後7日以内は、**一緒に使用してはいけません**。一緒に使用した場合、白血球減少、下痢、口内炎などの副作用が強くあらわれるおそれがあります。

| 商品名（先発名） | 一般名              |
|----------|------------------|
| ティーエスワン® | テガフル・ギメラシル・オテラシル |

- フルオロウラシルは、**上記以外にも、併用に注意が必要な薬があります**。薬局やドラッグストアで購入した薬も含め、担当の医師や薬剤師に飲み合わせを確認してもらいましょう。

## ◆ 主な副作用

### 白血球減少

白血球が減少すると免疫力が低下し、風邪などの感染症にかかりやすくなります。

治療開始1～2週間後に白血球の値が最も低くなり、その後1～2週間かけて回復します。

うがい・手洗いなどの感染予防を心がけましょう。

37.5度を超える発熱時、医師からあらかじめ処方された薬がない方は、病院へご連絡ください。

### 赤血球減少

貧血になり、めまい、だるさ、動悸、息切れなどの症状があらわれます。治療開始2～4週間頃に低くなります。

必要に応じて、薬で治療したり輸血することがあります。

### 血小板減少

血液が固まりにくくなり、歯茎からの出血や鼻血が出やすくなります。

治療開始1～2週間後に血小板の値が最も低くなり、その後1～2週間かけて回復します。

転倒やケガに注意してください。

必要に応じて、輸血することがあります。

### 【血液検査について】

副作用の確認のために、定期的な血液検査を行います。

## ◆ 点滴中

下記の赤字の症状があるときは、すぐに医療スタッフへお声かけください。

## 過敏反応（アレルギー）

寒気、吐き気、頭痛、めまい、発疹、息苦しい

治療開始1～2回目が起きやすいですが、治療を繰り返していても現れることがあります。

## 血管外漏出

点滴が漏れている、針を刺したところが痛い、熱っぽい、赤く腫れている、違和感がある

## ◆ 点滴終了後～1週間頃

### 吐き気・嘔吐・食欲不振

必要に合わせて、吐き気止めでしっかりと予防を行っています。

それでも症状がある場合は、吐き気止めを追加で使用することがあります。水分が摂れないほど吐き気・嘔吐がひどい場合は、ご連絡ください。

### 便秘

お腹の動きが悪くなり、便が固くなったりお腹がはることがあります。食事や水分摂取、適度な運動でも改善しない場合、下剤を使用します。

### 関節痛・筋肉痛

肩や背中、腰、手足の関節などが痛くなることがあります。

温めたりマッサージをすると改善することがあります。痛み止めを使用することがあります。

## 発疹

皮膚が赤くなる、かゆみが出ることがあります。

刺激の少ない肌着を着用しましょう。塗り薬やかゆみ止めの内服薬を使用することがあります。

治療開始後数日以内に全身に発疹やかゆみが出る、目の粘膜や唇がただれる、発熱を伴う場合などはすぐに病院へ連絡してください。

## 倦怠感（だるさ）

疲れやすい、気力がない、体が重いなどの症状で、日常生活に支障が出る場合は、診察時に主治医へご相談ください。

### ◆ 1～2週間頃

## 下痢

普段より1日4回以上多く排便がある、または1回でも水のような便があるときは、下痢止めを使用することがあります。

強い腹痛や発熱を伴う場合、医師から処方された下痢止めで改善しない場合は、ご連絡ください。

## 口内炎

口の中がヒリヒリする、しみる、痛くなることがあります。

歯みがきやうがいなどで口の中を清潔に保ち、乾燥を防ぐことが大切です。またうがい薬や塗り薬を使用することがあります。

がまんできない、水分もとれないほどの口の中の痛みがある場合は、病院へご連絡ください。

### ◆ 2～3週間頃

## 脱毛

薬の種類によって抜けやすさは異なりますが、1～2か月後にはかなり目立つようになります。

髪の毛以外（まゆ毛、まつ毛など）全身の体毛も同様に抜けます。

治療が終了すると、少しずつですが生えてきます。

## ◆ 蓄積性の副作用

### 末梢神経障害（手や足の感覚が鈍くなる、しびれ）

治療を長く続けると少しずつ悪化し、しびれや痛みが持続するようになります。治療を終えても回復に時間がかかります。

手先をうまく使えずボタンがかけづらい、転倒しやすいなど、日常生活に支障が出る前に、診察時に医師に相談してください。

### 爪障害

爪が厚くなる、表面がでこぼこする、2枚爪になる

症状の強さによっては、点滴中に手足を冷やすフローズングローブを使用することがあります。

### 色素沈着

皮膚に日焼けのようなしみができる、爪が黒ずむ

### 味覚障害

味を感じにくくなる、塩味を強く感じる、金属味がする、まずく感じるなど味覚に異常が出る場合があります。

### ● その他の副作用

非常にまれな副作用ですが、万が一赤字の症状がある場合は、すぐに病院へご連絡ください。

### 間質性肺炎

たんが絡まない乾いた咳、息苦しい、発熱

### 肝機能障害

定期的な血液検査を行います。

白目や皮膚が黄色くなる（黄疸）、ひどいだるさ

## ◆ 緊急時の連絡方法

困ったことがあったときは、下記にご連絡ください。

気持ち悪くて水分も摂れない  
下痢が止まらない  
37.5℃以上の発熱が続いている  
薬の使用方法がわからない

など



診察券を用意する

代表：044-977-8111 に電話をかける

平日：8:30-17:00  
土曜日：8:30-12:30

腫瘍センター  
ナースステーション

夜間帯・休診日  
など左記以外の時間

各診療科の当直医

## ◆ 予約外受診の方法

病院本館正面玄関に入って右手の  
「②再診受付」または「予約外受付機」で手続きした後、  
各診療科の外来でお待ちください。

※受付時間：平日8:30-11:30 土曜日8:30-11:00

- 生活上の注意については、別冊のパンフレットもご参照ください。
- ご不明な点がある場合は、遠慮なく医療スタッフにお尋ねください。

薬剤師